

○2019年度 加古川「知」を結ぶプロジェクト参加チームの提案内容

学部等	チーム名	担当教員	研究企業・団体	テーマ	提案内容
知能情報学部	岳ゼミ	岳 五一	加古川市政策企画課 シテプロモーション係	官学連携による「加古川魅力発信システム」 の開発と実用に向けた実証実験	岳研究チームは市政策企画課シテプロモーション係の調査に関する協力のもと、情報通信技術（ICT）を活用したモバイル端末向けの効率的かつ効果的に加古川市の情報発信を行える「加古川魅力発信システム」を開発し、加古川市における複数回の実証実験によってシステムの性能評価及び改善を行い、システムの有効性を示しました。また市のツイッターデータの詳細な解析結果から時間帯毎における活動率、利用者の性別・年齢層を見出し、フォロワーの活動時間帯・年齢層・性別等を考慮した情報発信案を提案し、実証実験によってニーズに合わせた情報発信することが効果的であることを数値結果をもって示しました。これらの成果が評価され、今後の実用化が期待されています。
学内選抜	岡村チーム	岡村 こず恵	加古川市危機管理課	「防災教育」と「郷土学習」を兼ねた 防災交流授業	私たちは、防災や加古川市について関心のあるメンバーで構成された全学選抜チームです。提案する内容は、次代を担う加古川市の高校生が主体となって、地元企業とともに防災交流授業を企画・運営する事業です。高校生が主体的にアクティブラーニング（能動的学習）に取り組みながら、地域の災害リスクや地元企業の強みなどを学ぶ郷土学習を兼ねており、防災知識だけでなく高校生の地元への愛着を育みます。立案には、教育委員会をはじめ、高校教員や生徒、防災活動に熱心な加古川市の企業にインタビュー調査を行うなど、実現可能なカリキュラムになるよう工夫し、加古川市の地域防災力の向上をめざすプランを提案しました。
経済学部	柘植ゼミ	柘植 隆宏	加古川市政策企画課 政策推進係	加古川×スポーツ×国際交流～加古川市民が求める オリンピックイベントとは～	私たちは、加古川市におけるオリンピックイベントを提案しました。アンケートの結果、市民は食のイベント、スポーツイベント、オリンピックとの交流を望んでいることがわかりました。そこで、これらのニーズを満たすイベントとして、オリンピック参加国が飲食店を出店し、来場者の投票により食の世界一を決定する「世界1（市）」、市内の会場で加古川市がホストタウンを務めるツバルの選手を応援するとともに、ツバルの文化について学ぶ「ツバルフェス～Public Viewing～」、VRでオリンピックの名場面を振り返るとともに、著名人に講演を行ってもらう「Olympic Memories」の3つを提案しました。オリンピックの感動と興奮を年間を通して味わえるよう、オリンピック開催前、期間中、開催後のそれぞれの時期に開催するイベントを提案しました。
経営学部	西村ゼミ	西村 順二	有限会社ネオ・ニッセイ	(有)ネオ・ニッセイ×甲南大学西村ゼミ ～ルピナスde地域活性化～	(有)ネオ・ニッセイの経営理念や経営者の思いを最優先に考え、それに沿って企業やグラノーラ品のSWOT分析から、グラノーラ市場の限界、企業が贈答品卸売業である優位性を抽出しました。その上で、それらを生かして、現在伸長しているカジュアルギフト市場に着目、また製品への企業理念を尊重して、妊婦に優しい製品を提案しました。出産の時点だけではなく、妊娠のお祝いから始まり、その後の子育ても続き、結果プレゼントを受けたユーザーが今度は送り手になる関係性の長い製品を考え、新市場開発を提案しました。また(有)ネオ・ニッセイの地域への思いに着目し、経営理念の一致する加古川の企業とのコラボ製品も提案し、地域全体の活性化を目指しました。全ては(有)ネオ・ニッセイの思いを大事にした提案です。
経営学部	北居ゼミ	北居 明	前島食品株式会社	企業の女性管理職を増やすには？ ～前島食品様を対象に考える～	北居ゼミ2年生は、前島食品株式会社のご協力のもと、「企業の女性管理職を増やすには？」というテーマでプロジェクトを進めました。私たちは、両立支援などの制度があっても、女性が管理職になるべきではない、あるいはなりたくないという思いをメンバーが持っていたら女性管理職はできないのではないかと仮説を立て、前島食品様の正社員を対象にアンケート調査をさせていただきました。調査項目は、社員と企業の暗黙の契約である「心理的契約」と性別に基づくイメージである「ジェンダー・バイアス」です。調査の結果、20代と30代の女性社員は、男性社員と同様に管理職になることを会社から期待されていると思いき、男性社員以上に会社側に管理職に登用することを期待していることがわかりました。これらの結果をもとに、社員を性別で見るとはなく、ひとりひとりのキャリアの希望や個性を把握するためのキャリア面談の開催を提案させていただきました。